

市町村セミナー

日時：令和元年度 9月20日

会場：厚生労働省 講堂

総社市ひきこもり支援センター 「ワンタッチ」の取り組み

ワンタッチ 



社会福祉法人

総社市社会福祉協議会

ひきこもり支援センター

岡山県総社市の概要

★印は、令和元年6月末現在

| | |
|---------|---------------------------------|
| 人口 | ★69,123人 |
| 世帯 | ★28,016世帯 |
| 高齢者人口 | ★19,346人 |
| 高齢化率 | ★27.99% |
| 生活保護世帯 | 302世帯 |
| ひとり親世帯 | 602世帯 |
| 手帳保持者 | 身体：2,231人 療育：499人 精神：343人 |
| 町内(自治)会 | 390団体 |
| 民生児童委員 | 162人 |
| 福祉委員 | 589人 |

平成31年3月末現在



～総社市第2次総合計画～
全国屈指の福祉文化先駆都市

福祉委員の活動

○地域課題の早期発見、早期対応

○きめ細かい福祉活動の担い手

①地域のアンテナ役

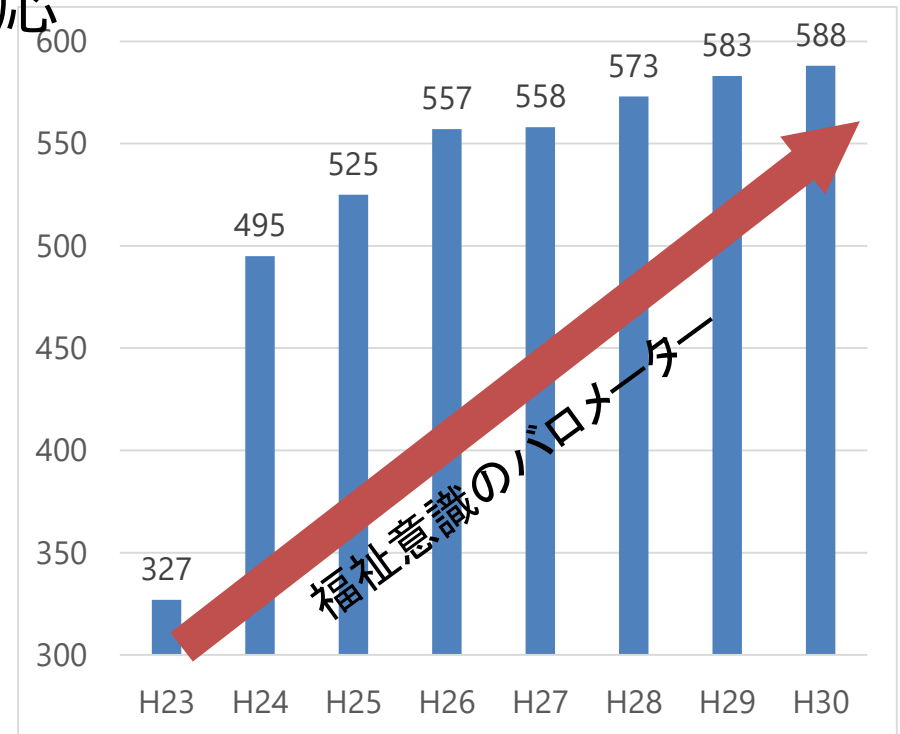
②福祉活動の協力役

③福祉情報の連絡役

④福祉意識の啓発役

○委嘱数 **588** 人

○ **45** 世帯に **1** 人配置



地域福祉活動への協力

地域のアンテナ役

総社市地域包括ケアシステム構想図

総社市地域包括ケア会議で検討

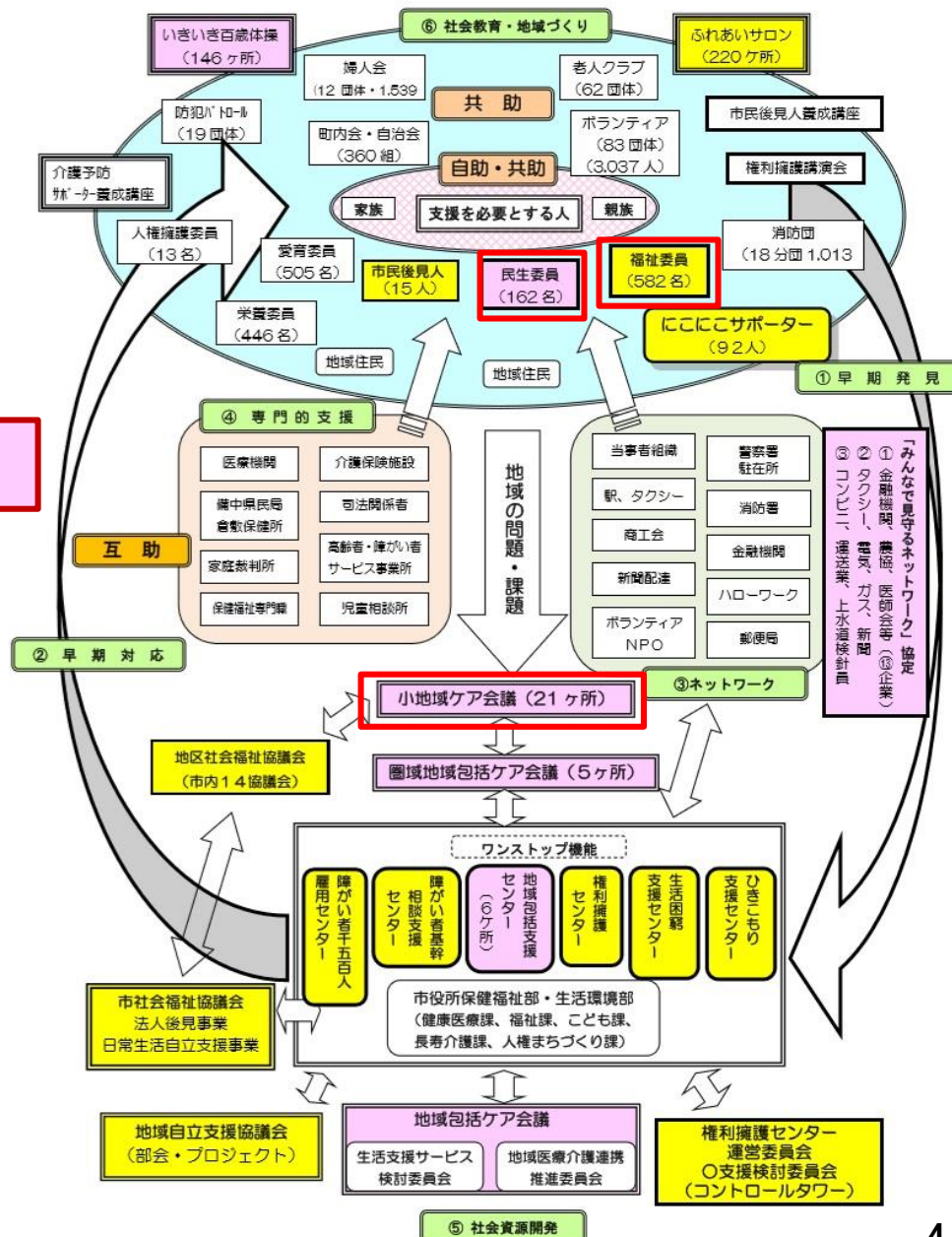
総合的な地域の支援の仕組み

☆地域包括ケアシステム6つの機能

ワンストップ機能

- ① 早期発見（見守り）機能
- ② 早期対応（支援）機能
- ③ ネットワーク機能
- ④ 専門的支援機能
- ⑤ 社会資源開発機能
- ⑥ 地域づくり・福祉教育機能

※美作大学教授 小坂田 稔 氏 参照



横断的な総合相談支援体制の確立

H21～/障がい者基幹相談支援センター

H24～/障がい者千人雇用センター

H25～/権利擁護センター“しえん”

H26～/生活困窮支援センター

H28～/そうじゃ60歳からの人生設計所

H29～/ひきこもり支援センター

H30～/復興支援センター

延相談件数

22,703件

(2018年度)

17,154件

(2017年度)

15,865件

(2016年度)

地域づくり活動と個別支援活動の融合

地域支援

- ・ 民生委員・児童委員活動
- ・ 福祉委員活動
- ・ 地区社協活動
- ・ ふれあいサロン活動
- ・ ボランティアセンター
- ・ 小地域ケア会議
- ・ 生活支援サービス
- ・ **ふくしネットそうじゃ**

個別支援

- ・ 障がい者基幹相談支援センター
- ・ 障がい者千五百人雇用センター
- ・ 権利擁護センター
- ・ **生活困窮支援センター**
- ・ 60才からの人生設計所
- ・ 日常生活自立支援事業
- ・ 法人後見事業
- ・ **ひきこもり支援センター**

「だれもが安心して豊かに暮らせるまちづくり」の実現

個別相談支援から見えてきた事例 (生活困窮者自立支援事業)

認知症の母（80代）と 30年以上ひきこもっている娘（50代）

- 母は、認知症状がみられ年金の管理ができない
- 第3者から搾取を受け経済的にも困窮している
- たびたび、社協の貸付を利用している
- 娘は、30年以上ひきこもり、誰も会ったことがない
- 生活環境は、劣悪になっている
- 熱中症で倒れ、救急搬送される



ご自宅の様子 (Before)



ご自宅の様子 (After)

通路ができました

お陰できれいになりました。
後は、自分たちで少しずつ . . .

地域住民と一緒に要援護者の支援を考える



総社市におけるひきこもりの実態は？

総社市内にいったい何人？



今までは、家族や
個人の課題？



相談機関や地域から、十分な支援ができていなかった？

地域の方や関係機関の支援を受けて、地域で安心して暮らせないだろうか？

社会の一員として、活躍できないだろうか？

ひきこもり支援等検討委員会の設置（H27.8月）

目的：市内のひきこもりの**実態把握**及び**支援方策**等を検討

⇒ひきこもり支援は、社会全体の課題であることを確認

構成委員：市民生委員協議会、市福祉委員協議会、市地域自立支援協議会、生活困窮支援センター協議会、若者サポートステーション、**市保健福祉部**、市教育委員会、市社会福祉協議会、備中保健所、ハローワーク、学識経験者

事業実施：生活困窮者自立支援事業

岡山県社会福祉協議会助成事業（市町村社協活動活性化支援事業度）

【総社市における**ひきこもりの定義**を決定】

「中学校卒業後であって、
おおむね6か月間以上
社会から孤立している状態」



ひきこもり支援を考える研修会の開催

民生委員・児童委員（161人）と福祉委員（573人）を対象に2回開催



合計：**288名参加**



◇第1回研修会（1月7日）

… **194名参加**

◇第2回研修会（1月9日）

… **94名参加**



ひきこもり支援を考える地区懇談会

市内17全地区で開催：最終的に207人の情報

【実数・実態（状態像）の把握】

- ①個人の特定をしない
 - 個人情報に配慮した調査
 - 氏名や年齢等は記入しない
- ②本人の同意がある
 - 氏名や年齢、生年月日等記入
 - すでに支援を受けている方

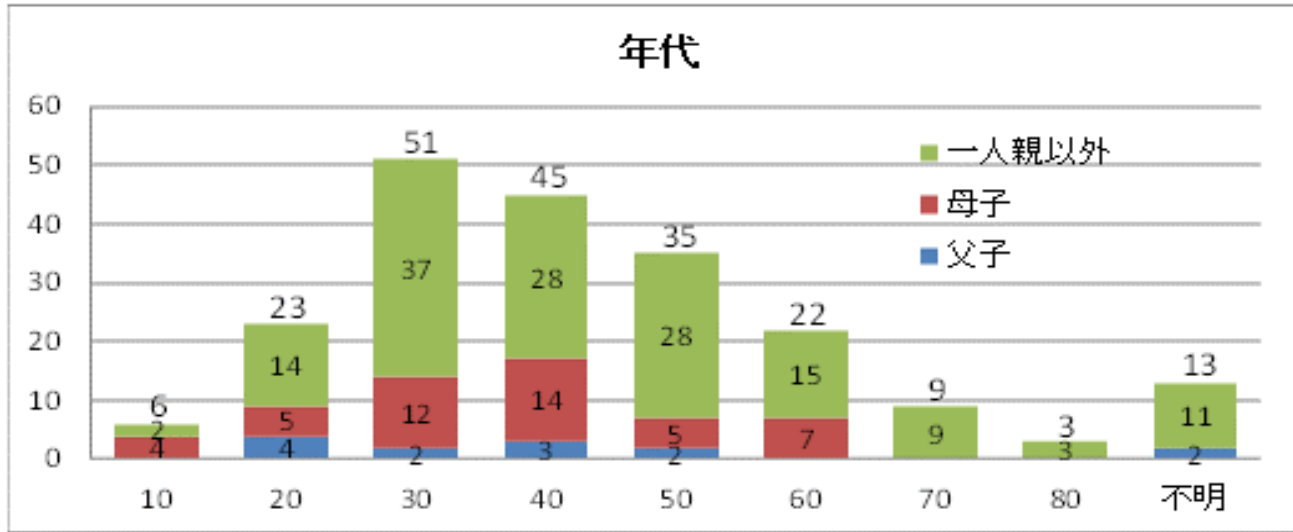


【ひきこもり支援の懇談会】

- ①ひきこもりの定義について共通認識を図る
- ②ひきこもりの方の具体事例を共有する
- ③情報提供カードを作成する
- ④市内全域17地区で開催予定

ひきこもり懇談会から見えてきた実態

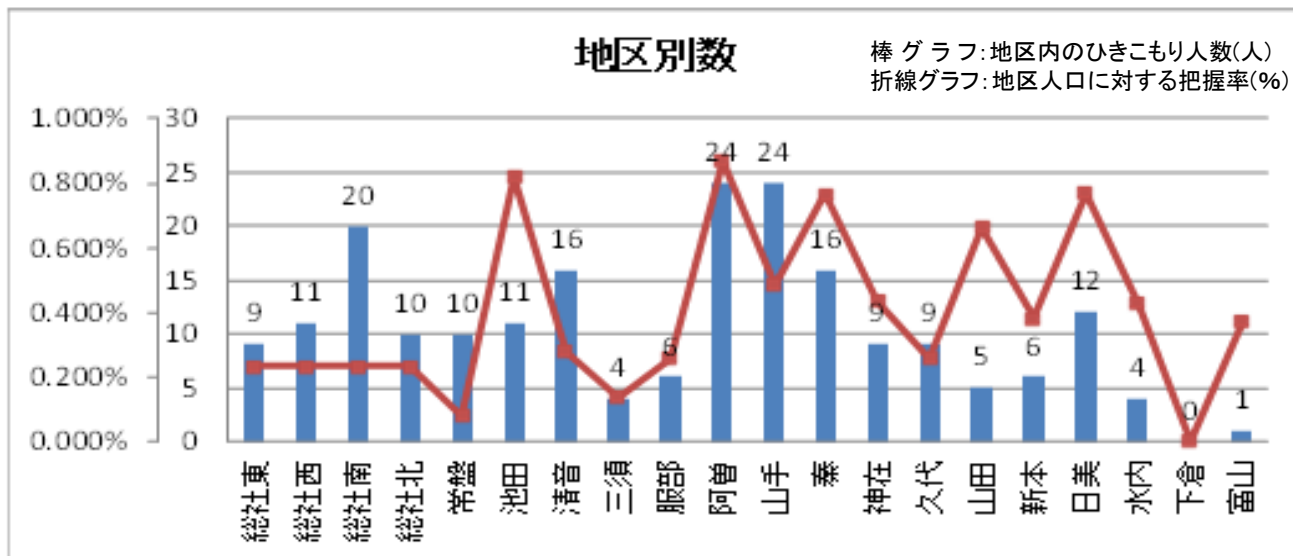
n=207



懇談会であげられた
ケース

207人

- ・総社市内のひきこもり
平均 0.30%
- ・総社市内のひきこもり



地区別 0.08%

~0.87%

・地区によって、かなりの差がある。

・かなり詳しく実態を把握されている地域がある。

今まで「ひきこもり」という課題は！ 最も難しい、閉塞した福祉課題のひとつ

ふたつの大きな壁

①本人・家族

- ・ 誰に相談していいのかわからない
- ・ 誰にも関わってほしくない
- ・ どうしていいのかわからない

高年齢化
長期化！

②地域住民・知人

- ・ 分かってはいるけど、話題にできない
- ・ 家族から触れてほしくないといわれる
- ・ どう関わっていいのかわからない



ひきこもり支援を地域福祉の課題として！

ひきこもりの実態→総社市の施策へ！

市内には、**ひきこもり状態**の方が少なくとも **207人**

- **幸福追求権**（憲法第13条）の保障を前提として
- 就労し、所得を得て、地域消費を支え、納税者に⇒**経済の活性化**
- 生きがいを見つけ、地域コミュニティの主役に⇒**地域の活性化**

総社市の**“重点課題”**と捉え

社会へ一歩踏み出すための**体制を整備**

全国屈指福祉会議

2015年12月、福祉制度のはざまに困っている人を支え、寄り添えるまちを目指し、支援を必要としている全ての市民が安心して暮らせるまちづくりのため、総社市独自の福祉政策を検討・決定する、**全国屈指福祉会議**を設置。

- 高齢者支援部会（H27～）
- 医療体制整備部会（H27～）
- 待機児童ゼロ部会（H27～）
- 発達障がい児支援部会（H27～）
- 障がい者支援部会（H29～）
- **ひきこもり支援部会**（H29～）
- 子ども虐待ゼロ部会（H30～）



第2次総社市総合計画

「全国屈指の福祉文化先駆都市」



平成28年3月策定

基本理念

- **困っている仲間を支えよう！**
- **子どもと仲間を増やそう！**
- **仲間と力を合わせよう！**

基本計画

- だれもが**住みたくなる**総社
 - ・子育て
 - ・社会保障（高齢者・障がい者など）
 - ・住宅・生活基盤
 - ・移住・定住促進
 - ・防災・消防
- だれもが**働きたくなる**総社
 - ・雇用
 - ・農林業
 - ・商工業・物流
- だれもが**学びたくなる**総社
 - ・学校・幼児教育
 - ・家庭教育
 - ・スポーツ・文化・生涯学習
- だれもが**訪れたくなる**総社
 - ・観光
 - ・都市・社会基盤
 - ・自然・環境
- だれもが**集いたくなる**総社
 - ・市民参加
 - ・広域連携
 - ・市役所

基本計画

- ・障がい者や、女性、高齢者、外国人などの働きたい希望をかなえる
- ・企業の理解や事業所内での雇用継続に向けたサポート体制の構築に向けた普及啓発
- 近隣自治体からの労働力の広域確保
- ハローワーク総社内に設置した「就労支援ルーム」による多様な就業機会の確保

様々な働き方を応援する

- 総社商工会議所や市内金融機関等と連携した「総社中小企業サポートセンター」により、女性や若者などの創業支援
- 社会変化に対応した雇用環境の整備や男女ともに働きやすい職場づくりの推進
- ・特に男性のワーク・ライフ・バランスの推進に向けた啓発

障がい者の自立を応援

- 障がい者千人雇用の深化
- ・障がい者千人雇用センターによる就労希望の障がい者と事業所のマッチング、新規就労先の開拓、職場定着のさらなる推進
- ・就労相談や就労前後のサポート体制の拡充
- ・企業において障がいについての理解を深め、自立に向けた支援体制作り

発達障がい者の自立を支援

- 障がい者千人雇用センターによる就労及び生活の支援
- 発達障がいの特性についての市民や企業の知識と理解の向上

「ひきこもり」の状況にある人の就労支援

- 「ひきこもり」の実態把握、相談支援の実施
- 交流や居場所作りの場となる支援拠点の整備

若者の地元就職を推進



計画期間：平成28年度～平成31年度
基本計画
基本計画
基本計画
だれもが働きたくなる総社

総社市

ひきこもり ワンタッチ 支援センター

あなたのことを忘れていません

あなたと一緒に考えます

相談専用

☎ 92-8597

E-mail: soudan@sojasyakyo.or.jp

ご本人へ

ひきこもりの方の多くが焦りや不安を抱えています。自分で答えが見つからないときは、まずご相談ください。一歩踏み出すあなたと一緒に考えます。

ご家族へ

誰かに話をする事で気持ちが楽になり、一緒に考えると、問題の整理ができます。ご家族だけでもご相談ください。



- 専門の相談員が、対応します
- 相談の内容についての秘密は守られます
- 相談は無料です

社会福祉法人 総社市社会福祉協議会

ひきこもり支援センター ワンタッチ

ひきこもり支援センター 「ワンタッチ」の誕生！

○専門の相談員が対応！

・2人の専任相談員

（社会福祉士・精神保健福祉士）

・電話、メール、訪問での相談

⇒100人の社会参加

○ひきこもりサポーターの養成

・理解ある市民が支援

⇒毎年40人のサポーター

○居場所の創設

・気軽に立ち寄れる場所

⇒平成30年2月23日設立

市町村で設置は、
全国でも例のないセンター

ひきこもり支援センターの相談支援状況 (H29.4~H31.3)



延相談件数 4,020件

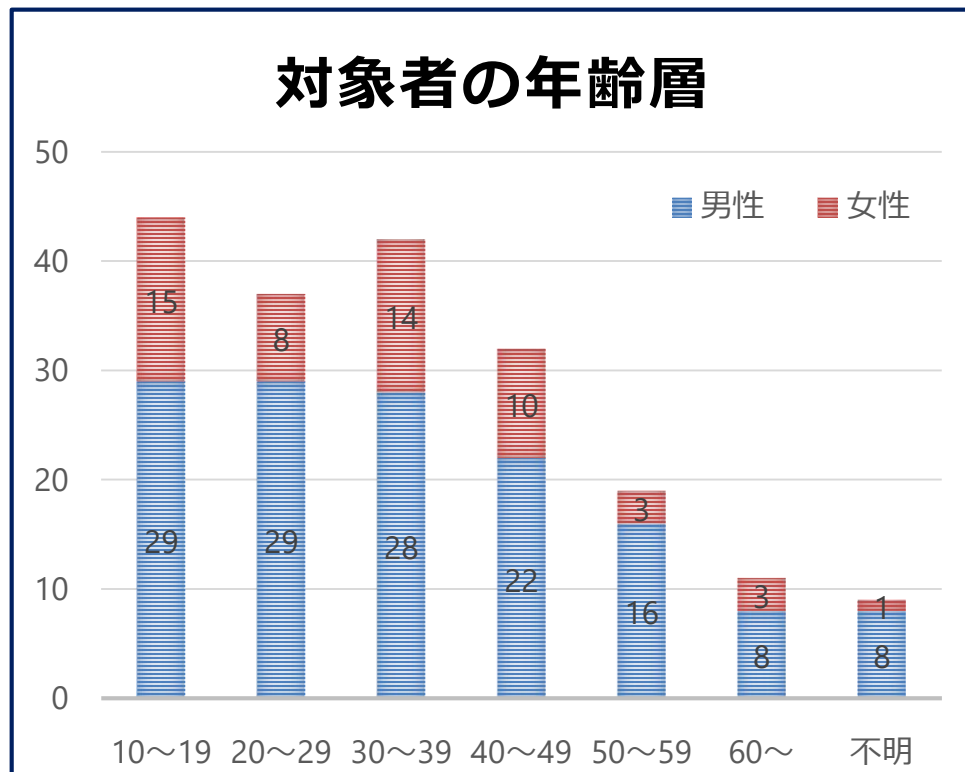
- ・ 訪問 1,013件 ・ 来所 1,367件
- ・ 電話 1,398件 ・ e-mail 242件

社会参加数 19人

- ・ V o体験 ・ 就労 ・ 地区社協行事
- ・ 進学 ・ 復学 ・ 居場所

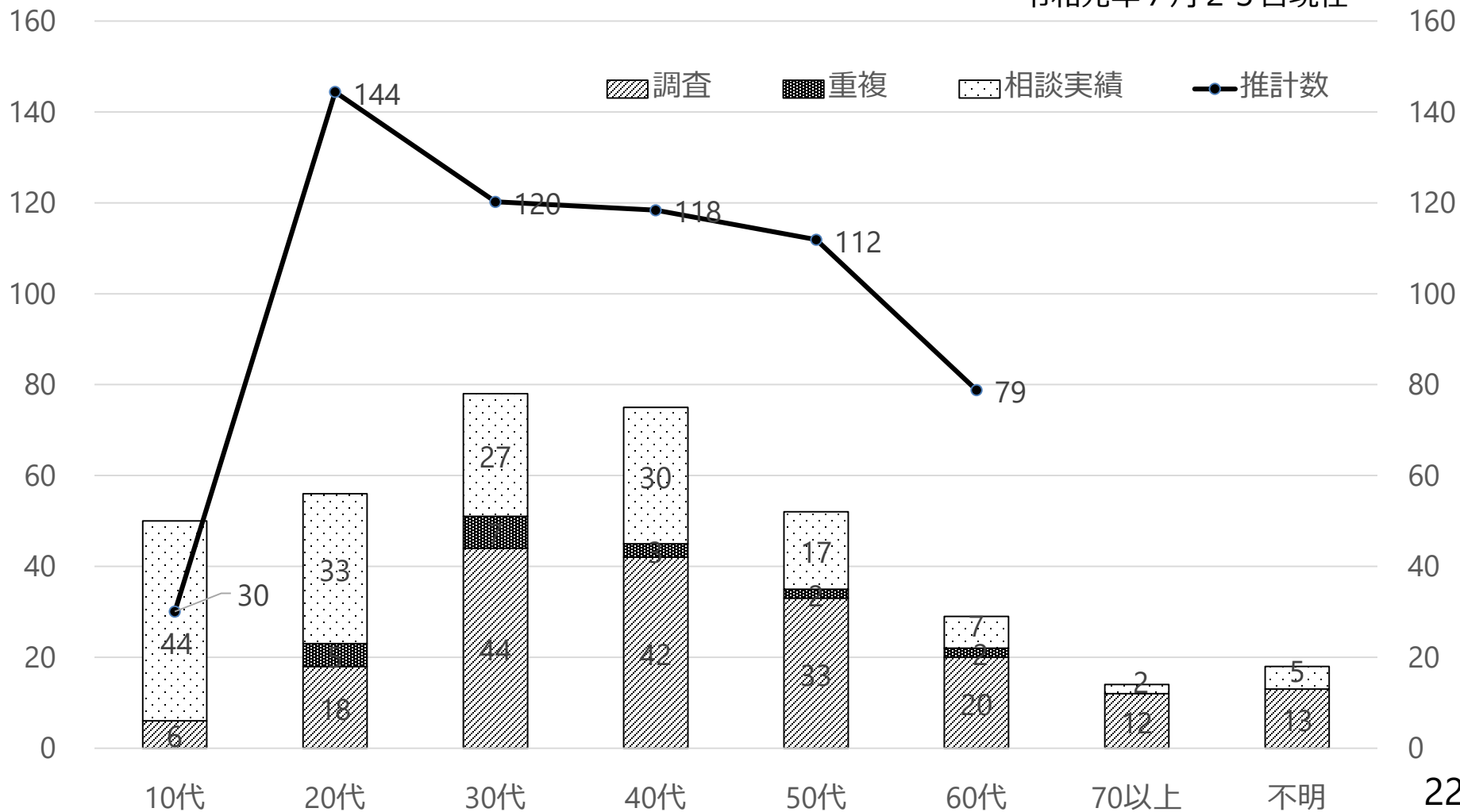
実相談者数 195人

- ・ 本人接触あり 66件
- ・ 家族接触のみ 71件
- ・ 民生委員から 26件



総社市のひきこもり調査・相談・推計数

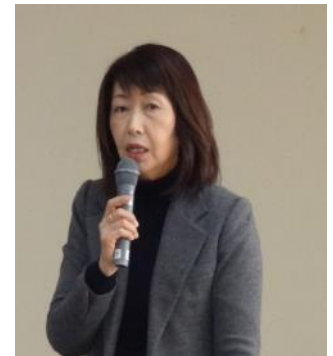
令和元年7月25日現在



ひきこもりサポーター養成講座

ひきこもりに対する理解、ひきこもりの方やその家族の支え手居場所づくり等のサポーターを養成することを目的に開催

全5回講座・毎年度40名目標・多様な参加者
(本人・家族・民生委員・福祉委員・ボランティア・大学生など)



【講師】

NPO法人代表、大学教授
(精神科医)、教育委員会、保健所、市、社協等の職員



「ひきこもりへの理解」 「自分たちにできること」

「居場所」 “ほっとタッチ”開設

開設式：平成30年2月23日



山崎新聞 2018年(平成30年)2月24日 土曜日 倉敷・総社 30

倉敷・総社圏版

社会へ踏み出す一步に

倉敷・総社圏版

総社市、引きこもりの人の社会復帰に向けた取り組みを進める

社会への第一歩を踏み出す「居場所」を市内に整備した。一人一人に合ったケアや交流を通じ、当事者の社会参加を促す拠点として活用する。

総社市中央、市役所近くの平屋の一軒家「3DK」を賃借して運営する。愛称は「ほっとタッチ」。引きこもりの当事者が、地域住民やボランティアと交流する機会を設け、社会復帰のきっかけをつかんでもらう。当面は必要に応じて利用するが、将来的には、スタッフが常駐して、当事者や家族がいつでも訪れられる体制を目指す。

市では、引きこもり支援等

個人ケアや住民と交流

引きこもりの人の社会復帰に向けた取り組みを進める総社市は23日、自宅から出て社会への第一歩を踏み出す「居場所」を市内に整備した。一人一人に合ったケアや交流を通じ、当事者の社会参加を促す拠点として活用する。

総社市中央、市役所近くの平屋の一軒家「3DK」を賃借して運営する。愛称は「ほっとタッチ」。引きこもりの当事者が、地域住民やボランティアと交流する機会を設け、社会復帰のきっかけをつかんでもらう。当面は必要に応じて利用するが、将来的には、スタッフが常駐して、当事者や家族がいつでも訪れられる体制を目指す。

市では、引きこもり支援等

検査委員会の調査で市内に少なくとも107人の引きこもりの人がいると分り、本年度、本格的に対策に乗り出した。4月、市社会福祉協議会にひきこもり支援センター「ワンタッチ」を開設し、専門職員が当事者や家族からの相談に応じている。22日までに100件の相談があり、10人が引きこもり状態から社会に歩み出したという。

23日の開所式には、市やひきこもり支援センター関係者、ボランティアの支援サポート171人、約60人が参加。片岡聡一市長らが看板を除幕し「生きる喜びを感じ、社会で自立するための準備の場として活用してほしい」とあいさつした。(古川和宏)

総社市が開設した引きこもりの人の居場所「ほっとタッチ」



ひきこもりサポーターの会 「ほっともの会」 設立

ひきこもりサポーター登録者 **61人**

- ・ サポーター養成講座受講者 118人 / 3年間
- ・ 平成30年7月1日設立

ほっとタッチ
(居場所) で当
事者と大切な時
間を共有...

活動内容の
話しあいをし
たり...



ひきこもり家族会 「ほっとタッチの会」 設立



- 平成30年8月16日設立
- 毎月第3木曜日13:00~15:00
- 情報交換や親睦・サービス等の情報交換
- 勉強会や研修会など
- 年会費1,000円



ひきこもり支援を行うためには！

○ひきこもりの実態調査

- ・ 地区座談会の開催（住民意識啓発）
- ・ 実態調査の実施と結果の公表



○検討委員会の設置

- ・ ひきこもりの定義と理念を明確化
- ・ ひきこもり支援のネットワークの形成
- ・ ひきこもり支援施策の創設

○行政の施策化

- ・ 行政の事業として予算化
- ・ 生活困窮者支援事業としての実施

○ワンストップ窓口の設置

- ・ ひきこもり支援専門の窓口の設置
- ・ 専門職の配置（社会福祉士、臨床心理士など）



ひきこもり支援・総社のあゆみ 2018 ひきこもりサポーター養成テキスト

ひきこもり支援・総社のあゆみ
行政と社協の協働体制 2018

発行 ひきこもり支援等検討委員会

絶賛頒布中!
原価 (500円)

<http://www.sojasyakyo.or.jp/since2018/09hikikomori/hikikomori.html>



総社市ひきこもり支援等検討委員会

ひきこもりサポーター
養成テキスト



絶賛発売中!

販売価格
1200円
(税抜)

全国ひきこもり支援サミット・ フォーラム in そうじゃ開催 8/26



中央大学法学部
教授
宮本 太郎 氏





ひきこもり支援基礎自治体宣言書

わたしたちは、すべての人々に寄り添う自治体となることを目指し、
家族会、当事者の会、福祉関係者とともに、
ひきこもり支援に果敢に取り組むことを宣言します。



令和元年8月26日

群馬県 安中市長

茂木英子

愛知県 豊明市長

小浮正典

滋賀県 守山市長

宮本和宏

山口県 宇部市長

久保田有子

岡山県 総社市長

尾岡篤一